

登米市（仮称）地域交流センター整備基本構想及び基本計画策定支援業務
公募型プロポーザル審査委員会審査講評について

令和5年12月28日、掲題の業務委託について、公募型プロポーザル方式により受託事業者を選定するため、参加表明のあった5社によるプレゼンテーション、ヒアリング・審査を行いました。

※審査委員9名（学識経験者2名、市職員7名）

本プロポーザルは、急速に進む人口減少、少子高齢化、ニーズの多様化、高度情報化及び公共施設の老朽化を見据え、中心市街地の再構築を進める立地適正化計画に基づいて、その核となる市民交流機能（公民館機能を含む）・保健センター機能・図書館機能・議会機能・行政機能などからなる多機能型複合施設の整備に関する「基本構想」及び「基本計画」の策定支援を業務委託する専門家チームを選定するものです。

各機能の複合と配置、省エネルギー・創エネルギーや木材利用などの建築的視点（ハード面）はもちろん、本市の総合計画、立地適正化計画、図書館構想などを勘案し、公民連携による活用・管理・運営や中心市街地活性化、広い市域の各拠点とのネットワークなど、まちづくり的視点（ソフト面）にかかる検討を統合的に進める必要があります。

最優秀提案は、施設の立地とあり方が水滴と波紋のように広がる可能性をコンセプトとして明示し、市民交流イベントからバスの待ち時間に図書に触れる高校生の日常まで、市民一人一人の居場所・交流像を地域ネットワークと配置計画の中で示すとともに、実績事例を用いた次世代DX型のオフィス構想など総合力と柔軟性が卓越し、ワークショップの手腕など市民協働型の構想・計画策定プロセスへの信頼感も評価されました。

優秀提案は、本市での業務実績や充実の業務実施体制に優位性があり、中心市街地のにぎわい創出につながる創業、企業参画など公民連携の先導等において期待できる提案が評価されましたが、市内各地での傾聴・対話計画などが十分でないという指摘もありました。

このほか、最優秀提案と同等に魅力ある交流空間イメージや丹念な地域調査・対話の手法が複数委員に高く評価されながらも地盤・基礎・階数規模の捉え方などで意見が分かれた提案や、伸びやかな室内空間と高い省エネルギー性能が期待される建築案を短期間に作成した設計力が高く評価されながらソフト面の不足がみられた提案、近未来のDX公共施設像が好印象ながら本市の地域性や中心市街地への言及に不足がみられた提案がありました。

以上、魅力ある多彩な秀作が寄せられ、公募から提出までの期間が極めて短かったにもかかわらずこのようにまとめ上げられたことに審査委員一同は敬服するとともに、審査は難航を極めました。

最終的には、本市の現状や構想・計画の意義、地域への深い理解と課題解決に向けての柔軟な対応力、地域共創力などにおいて僅差が生じ、今回の結果に至りました。

応募いただきました各社の担当者・協力者の皆様におかれましては、貴重なお時間を費やして真摯にご尽力いただきましたことに心から敬意と感謝を申し上げ、ここに講評として報告させていただきます。

登米市（仮称）地域交流センター整備基本構想及び基本計画
策定支援業務公募型プロポーザル審査委員会

委員長 大沼 正寛